

パツと頭に浮かんだのが “エンジニアファースト” というコトバ

創業3年目までは私1人、仕事もすこし手一杯になってきたころリクルー
トで開発リーダーをしていた人が
ディーメイクに入りたいと言ってきたま
した。え？リーダークラスの人が来てく
れるの？すごく嬉しくて役員として迎
えられ、ともに経営者として会社を盛
りあげよう！という話になりました。でも
残念ながらもがくは続きませんでした。
た。そのかたには“経営者マインド”はな
く、あくまで私生活優先。私との意識
のずれがどんどん大きくなったのです。

いま考えてみれば当たり前なのですが、
実際に経営者になつてみないとそのマイ
ンドになることはないし求めるのも酷で
す。それよりも自分がやらないといけな
いのは、ディーメイクをもっともつと魅
力的な会社にして“働きたい”と思つて
もらえるような会社で成長させることだ
と感じたのです。そのときに自分が現
場をしていた頃のことをいろいろ思い出
してみました。自分がどんなときに嬉
しかっただろう？充実感を感じたのは
なにを言われたとき？想いを馳せてい
るとパツと頭に浮かんだのが“エンジニア
ファースト”というコトバ。エンジニアとい
うのは1000点満点からの減点法。つ
まり100%やつて当たり前。正確
にミスなく納期のとおりにやつて当たり
まえ。そこに感謝はなく、すべては“当
たりまえ”の世界。必死にがんばつて成
果を出して感謝されないのは苦痛でし
かありません。当然やる気も出ることは
ありません。わたしが現場をやつてい

て幸せを感じたのは認められたり、自
分の成長を感じることができたとき。
そしたらディーメイクをそういう会社
にしよう。エンジニアファーストを掲げ、社
員が最大限の力を発揮できる環境を
整えて、称賛と承認の溢れる会社にし
よう！と決め、社員が入るまえから経
営理念・評価制度といった企業の根幹
になる部分を整えていきました。そし
て私も自分自身の経営者マインドをあ
げるために仕事と趣味の境界をなくし
ました。仕事のような趣味、趣味のよ
うな仕事といえるくらい没頭できる経
営者つて強いと思うのです。そこでその
時点で趣味だった競馬をすっぱりとや
めました。

受ける仕事よりも 実は断る仕事が大事

根底にあるものが変われば行動・結
果もかわるもの、創業3年目まではわ
たし1人だった社員数がそこから7年
で26名まで増えました。日本だけでな
くドバイやインドネシアに進出するのは
スタッフに夢をあたえるため。海外で働
くことができることがモチベーションにな
る社員もいます。また子育て時期でリ
モートワークのほうが助かる人もいるの
で、弊社ではハイブリッド（在宅90%出社
10%）で働きやすい環境整備もすすめ
ています。その根幹はやはりエンジニア
ファーストという考えかたです。開発基
盤の整備や働きやすさの追求を通じ
て、エンジニアやクリエイターの成長を支
え、その成果が高い提案力や品質に結
びつき、クライアントからの信頼へとつな
がる。そんな好循環を生み出すことが、
私たちの経営の中核にあるからです。

実はあと弊社が大切にしているのは“こ
わる仕事”。どんな仕事でも受けるわけ
ではありません。受ける仕事よりも実は断る
仕事が大事なのがこのシステム業界、なか
にはエンジニアが疲弊しかしないような案
件があるのでこの見極めはしっかりするよ
うにしています。

挑戦のないところに 成長はありません

欲つて大事だと思ふのです。最初は私
利私欲でもいい、でもその欲のおよぼす
範囲がだんだん大きくなっていく、いわば
私のたった1人の欲からはじまったデー
メイクがいま26名の成長欲を有する組織
となりました。拒絶していた父でしたが、
わたしよりもはるかに多くのスタッフの欲
を受けとめていたのかと思うと尊敬の念
をおなじ立場にたつてはじめて感じるこ
とができるようになりました。挑戦でき
る環境があるからこそ人は大胆に挑戦で
きる、挑戦のないところに成長はありま
せん。だからこそ私は経営者として社員
が安心して挑戦できる土台を整えるこ
とを自らの重要な役割と捉えています。
私が大切にしているのは、どんな状況で
も“挑戦する姿勢”を持ちつづけること。
人は心が原動力、だからこそ自分自身が
ワクワクするようなチャレンジを常に仕掛
けていくことが重要なのです。ワクワクは
人の可能性を広げ、選択肢を持つことの
できる強さへとつながります。ディーメ
イクという器を通じて、仲間とともに、未
来の選択肢が広がるような挑戦を重ね
ながら、クライアントやパートナー、そして
社員一人ひとりとつての可能性を最大
化する支援にわたしの人生の時間を費
やしていきます。

from IL SARTO

技術力と可能性のシンボル。

大手企業から次々にお声がかかる高い技術力をお持ちのディーメイクさん。この技術力を支えるエンジニアをとにかく大切にさらに成長してほしい、それが中村さんの想いなのです。そこで装いのテーマを「技術力と可能性のシンボル」とし“柔和・親近感・品格”を感じさせるグレンチェックにディーメイクさんの色である“ブルー”を使い、経営理念を身に纏って頂きました！



6.中村さんのお話が上手で楽しいインタビュー時間でした！
7.ドバイからお越しいただいた中村さんに感謝するかのような快晴

仕事のような趣味、
趣味のような仕事と
いえるくらい没頭できる
経営者つて強い